

令和3年度 第1回「エコシティたかつ」推進会議 次第

1 議事

- (1) 「エコシティたかつ」について
- (2) 令和2年度の取り組みについて
- (3) 令和3年度推進事業の進め方について

<送付資料>

- 資料1 「エコシティたかつ」推進方針（抜粋）
- 資料2 「エコシティたかつ」推進方針（本編）
- 資料3 「エコシティたかつ」の推進に向けた総合的な展開
- 資料4 「エコシティたかつ」推進事業2020年度概要版
- 資料5 令和2年度「エコシティたかつ」推進事業報告書
- 資料6 「エコシティたかつ」推進事業 令和3年度スケジュール
- 資料7 「学校流域プロジェクト」、「たかつの自然の賑わいづくり」事業の進捗状況について
- 資料8 エコシティツアー及び「エコシティたかつ」推進フォーラムについて

令和3年度「エコシティたかつ」推進会議 委員名簿

区分		氏名	所属	職名
有識者	1	岸 由二	慶應義塾大学	名誉教授
	2	田中 友章	明治大学理工学部	教授
団体	3	竹井 斎	川崎市地球温暖化防止活動推進センター	センター長
	4	宮寺 貞文	高津区市民健康の森を育てる会	代表
	5	加藤 伸子	高津区まちづくり協議会	
	6	仲村 美津子	たちばな農のあるまちづくり推進会議	委員長
区内企業・その他	7	平澤 克己	NECプラットフォームズ株式会社（区内企業）	環境工務部 環境企画・首都圏グループ マネージャー
	8	加藤 祐美子	株式会社川崎フロンターレ（区内企業）	集客プロモーショングループ
	9	今川 広明	株式会社富士通ゼネラル（区内企業）	CSR推進部 シニアマネージャー
	10	阿部 和美	マルイファミリー溝口	施設管理部長
	11	吉岡 高史	学校法人 洗足学園	法人本部財務責任者
市民	12	遠藤 慶子	市民委員	
校長会	13	松崎 哲範	川崎市立小学校長会高津支部	久本小学校長
行政	14	石井 芳宏	川崎市教育委員会 総合教育センター カリキュラムセンター	指導主事
	15	筒井 康仁	川崎市高津区役所	副区長
	16	山本 隆之	川崎市環境局総務部企画課	課長
	17	五十嵐 美保子	川崎市環境局地球環境推進室(協働推進・国際環境施策)	担当課長
	18	小沼 匡弘	川崎市建設緑政局総務部企画課	課長
	19	田中 康子	川崎市高津区役所保健福祉センター(学校・地域連携担当)	担当課長
	20	古谷 保則	川崎市高津区役所道路公園センター(協働推進担当)	担当課長

氏名	所属	職名
【事務局】		
和田 一晃	高津区役所まちづくり推進部企画課	課長
佐藤 智之	高津区役所まちづくり推進部企画課	担当係長
桐ヶ谷 政幸	高津区役所まちづくり推進部企画課	主任
越智 かえで	高津区役所まちづくり推進部企画課	職員
堤 奈穂	高津区役所まちづくり推進部企画課	職員

「エコシティたかつ」推進方針

(2009年3月策定、
2019年3月改定)

＜「エコシティたかつ」推進方針とは・・・＞

地球環境危機の時代において、高津区で顕在化している自然環境、社会環境、生活環境に関する諸課題に対し、地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に取り組むための基本的な方針です。

基本理念

地球環境危機の時代に対応した、自然の賑わいとともにある持続可能な循環型都市構造の再生と創造

エコシティたかつ

緩和策・適応策・生物多様性保全への方策を、「流域」という枠組みで統合していく「エコシティたかつ」の長期環境戦略

流域志向

温暖化
緩和策

生物多様性
保全への
貢献

温暖化
適応策



＜基本目標＞

緩和策

①低炭素・省資源社会の実現

私たち一人ひとりが身近なアクションをおこし、地域／地球の二酸化炭素の削減につなげ、資源を有効に活用します。

生物
多様性

②自然共生型都市再生の推進

丘陵などランドスケープを重視した、生命（いのち）の賑わい豊かな自然共生型の都市再生を地域から推進します。

適応策

③地域に即した防災まちづくりの推進

深刻化する局地的な豪雨や洪水、渇水に対し、流域の水循環に即した“水災害適応型都市”づくりを推進します。



＜実現に向けた基本的な考え方＞

エコだけじゃ、エコは進まない！

①環境的・社会的・経済的持続可能性の実現

環境的視点を重視しながらも、社会的視点や経済的視点を取り入れた取組を推進することにより、持続可能な都市をめざします。

大地の“でこぼこ”を考えたプランニング

②地域の流域特性に根ざした事業推進

基本的な地形に配慮し、それぞれの流域に根ざした緑地保全や健全な水循環系システムを構築することは、地球温暖化に伴う自然災害への適応策として、市民が安全に暮らしていくことのできる水災害に強い都市の基盤づくりとなります。

まちのみんなで進めよう！

③多様な主体の協働・連携による推進、区民の参加促進と担い手の育成

区民、企業、学校、行政等の多様な主体が情報共有を進め、共通の目標に向かって、それぞれの役割と責任の中でできることを行い、連携することで大きな推進力を生み、相乗的な事業展開や新たな取組の誘発につなげることが大切です。

区役所の事業をエコから捉え直す

④区の事務事業の環境視点からの見直しと総合的展開

区役所の事業を環境的視点から捉え直し、必要に応じて区役所が実施する各事業間の連携を進めることにより、効果的・効率的に「エコシティたかつ」を推進していきます。



・・・わたしと地球をつなぐ街・・・

「エコシティたかつ」推進方針

平成 3 1 (2 0 1 9) 年 3 月

川崎市

地球環境危機の時代に対応した、自然の賑わいとともにある
持続可能な循環型都市構造の再生と創造
～100年後のたかつのまちのために～

「エコシティたかつ」推進方針 目次

1 「エコシティたかつ」推進方針について	1
(1) 「エコシティたかつ」推進方針策定の経緯	
(2) 推進方針改定のポイントと方針の位置づけ	
(3) 改定後の「エコシティたかつ」推進方針	
(4) 対象区域	
(5) 方針の構成	
2 「エコシティたかつ」推進に係るこれまでの主な取組	4
(1) 学校流域プロジェクト	
(2) たかつの自然の賑わいづくり事業	
(3) 橘地区の農的資源を活かしたまちづくりの推進	
(4) 区役所庁舎のエコシティホール化の推進	
(5) 各種環境普及啓発活動の推進	
(6) 「エコシティたかつ」推進のための体制作り	
(7) 小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト	
(8) 地図による地域環境資源の共有化の促進	
(9) その他の取組	
(10) 当初の推進方針で示されていた中長期的なプロジェクト案及び 「これからの検討課題」の取組状況	
3 地球温暖化の現状、社会状況の変化等	14
(1) 地球温暖化の現状	
(2) 社会状況の変化	

4 「エコシティたかつ」基本理念と基本目標	16
(1) 「エコシティたかつ」の基本理念	
(2) 「エコシティたかつ」実現のための基本目標	
5 「エコシティたかつ」の実現に向けた基本的考え方	20
6 「エコシティたかつ」の推進体制	22
(1) 「エコシティたかつ」推進会議の設置	
(2) 「エコシティたかつ」推進会議の役割	
(3) 方針の見直しの仕組み	
資料編	23
資料1 平成30年度「エコシティたかつ」推進会議 委員名簿	
資料2 「エコシティたかつ」推進方針改定の検討経過	
資料3 平成31（2019）年度以降の当面の取組 （川崎市総合計画第2期実施計画に掲載している主な取組等）	

1 「エコシティたかつ」推進方針について

(1) 「エコシティたかつ」推進方針策定の経緯

平成 18 (2006) 年からはじまった「高津区区民会議」では、高津区の課題について把握・整理を行い、審議を進めました。平成 19 (2007) 年には、「環境まちづくり」を審議課題に加えて審議し、次の 3 つの具体的な課題を設定しました。

課題① 環境問題に対する理解、普及啓発活動の必要性

課題② 身近な地球温暖化防止の取組の推進

課題③ まちづくりや活動を支える仕組みづくり

「高津区区民会議」での調査審議を受け、市内でのモデルケースとして、区内の地域資源を活用しながら持続可能な地域社会「エコシティたかつ」の形成に向けた事業展開を促進するために、平成 21 (2009) 年 3 月に推進方針を市民協働で策定しました。

(2) 推進方針改定のポイントと方針の位置づけ

「エコシティたかつ」推進方針策定からこれまでの間に「川崎市地球温暖化対策推進基本計画¹」や「生物多様性かわさき戦略²」等の「エコシティたかつ」推進方針と関連の深い全市レベルの計画等が策定・改定され、「エコシティたかつ」推進方針で基本目標として掲げる地球温暖化に対する「緩和策³」と「適応策⁴」、「生物多様性保全⁵」の 3 つの柱が全て全市レベルの計画等の中に含まれたことから、「エコシティたかつ」推進方針の位置づけを改めることとします。

一方で、「エコシティたかつ」推進方針で掲げている基本理念や基本目標の達成に向けては、長期的なスパンで取組を進めていく必要があり、「川崎市地球温暖化対策推進基本計画」や「生物多様性かわさき戦略」等の全市レベルの計画で示されている方向性とも合致していることから、基本理念や基本目標の変更はしないものとします。

¹ 30 施策により 2030 年度までに 30%以上の温室効果ガス削減を目指し、地球温暖化対策等が産業振興、防災対策、健康維持等にも寄与する「マルチベネフィット」の視点を活かして取組を進めることで、温室効果ガス排出量の削減等に取り組む計画。

² 本市の地域特性を踏まえた生物多様性保全の取組を推進するため、人と生き物との“つながり”に主眼をおいて、3 つの基本方針（人と生き物をつなげる、生き物をつなげる、情報をつなげる）のもとリーディング・プロジェクトや基本施策を掲げているプラン。

³ 温暖化の原因となる温室効果ガスを抑制すること。

⁴ 既に起こりつつある、あるいは起こりうる影響に対して、自然や人間社会のあり方を調整すること。

⁵ 様々な生きものが相互の関係を保ちながら、生息環境の中で繁殖を続けていける状態を保全すること。

「エコシティたかつ」推進方針の位置づけ

- 自治基本条例・環境基本条例の趣旨を踏まえ、川崎市総合計画等の全市レベルの計画や区レベルの計画・事業と連携した高津区の計画要素を含んだ方針



- 川崎市地球温暖化対策推進基本計画等の関連が深い全市レベルの計画と連携し、区レベルで持続可能な地域社会の形成に向けた取組を進める際の方向性と推進体制について示した方針

※具体的な事業については、川崎市総合計画（高津区計画）の中で示していく

(3) 改定後の「エコシティたかつ」推進方針

「エコシティたかつ」推進方針は、地球環境危機の時代において、高津区で顕在化している自然環境、社会環境、生活環境に関する諸課題に対し、地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に取り組むための基本的な方針です。

「エコシティたかつ」推進方針は、高津区で生活し、学び、働き、活動する様々な個人・組織が、地域社会の一員として「100年後のたかつのまちのために」行動するための指針となるものです。

地球環境危機の時代に対応し、自然の賑わいに溢れた持続可能な循環型都市「エコシティたかつ」の将来像を共有し、その実現に向けた方向性と推進体制を示しています。

この推進方針に基づき、地域の多様な主体が、それぞれの立場から「エコシティたかつ」の理念に根ざした行動を起こし、積極的なコミュニケーションを進め、それぞれの行動が相互に響き合い、支え合うような取組をとともに進めます。

(4) 対象区域

高津区の全域（17.1km²）を対象区域とします。また、同一流域界⁶にある周辺区域（流域とは、雨の水が水系⁷に集まる範囲）も考慮して取組を進めるものとします。



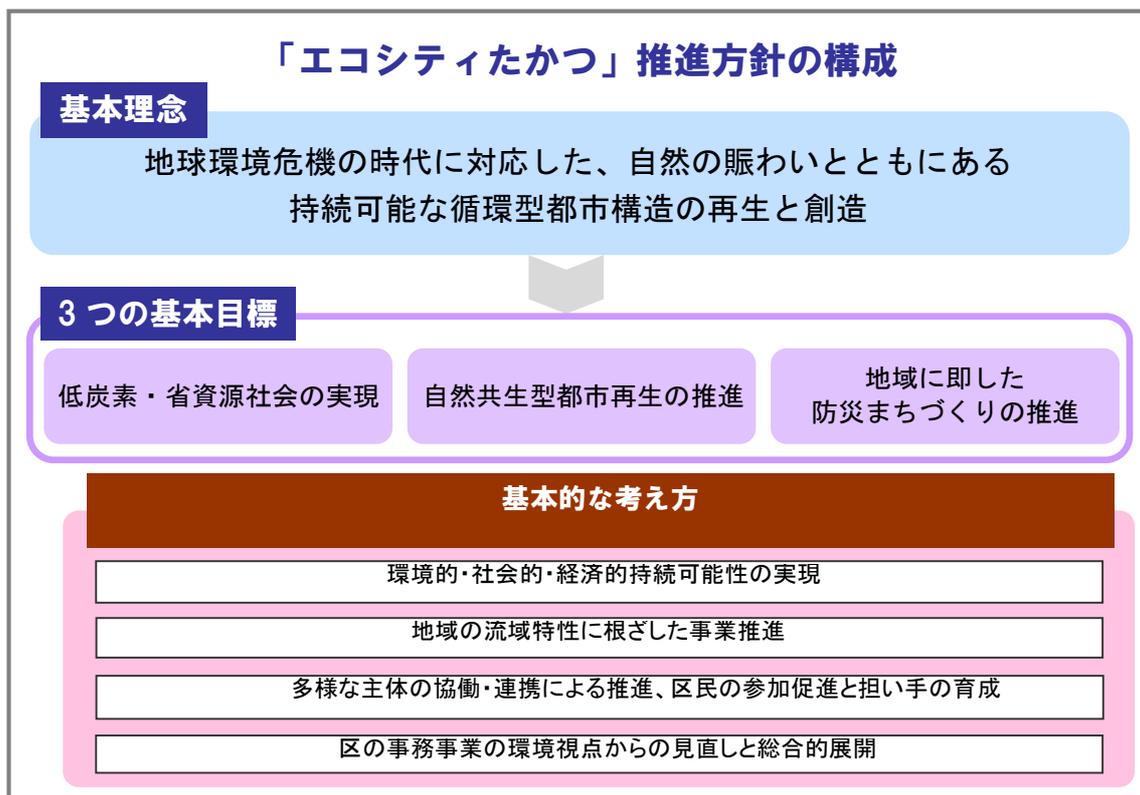
⁶ 各流域の境界線のこと。

⁷ ある河川の本川、支川、派川、及びこれに連なる湖沼を合わせたもの。

(5) 方針の構成

「エコシティたかつ」推進方針は、その構造を「基本理念」、「基本目標」と「基本的考え方」とに分けています。

「基本理念」、「基本目標」は、高津区が多様な主体と協働で進める環境まちづくりの基本方針として、施策の基本方向を掲げるものであり、「基本的考え方」は、「基本理念」、「基本目標」の実現に向け、行政や様々な個人・組織が、地域社会の一員として「100年後のたかつのまちのために」行動する際の基本的考え方を示しています。



2 「エコシティたかつ」推進に係るこれまでの主な取組

(1) 学校流域プロジェクト

【目的】

学校を、将来を担う子どもたちが、身近な場所で自然や水循環の仕組み、さらには自然再生の過程を実感する場として、また、健全な水循環のもとに生きものの賑わいを再生し、支える地域のモデル基地として位置づけ、各種ビオトープ⁸や雨水利用施設などを整備し、学習活動・課外活動・地域との交流活動等に活用します。

【主な取組】

- ・区内全市立小学校と中央支援学校にビオトープを整備し、ビオトープの整備状況を踏まえながら、環境学習支援を実施（平成 21（2009）年～）
- ・小学校教職員を対象とした環境学習研修会を開催（平成 23（2011）年～）
- ・区内小学校への雨水タンクの設置等により、学校における雨水の利活用を推進（平成 26（2014）年～）
- ・「エコシティたかつ」推進フォーラムにて、学校ビオトープ交流会を実施（平成 24（2012）年～）

【成果】

- ・学校との良好な関係性を築きながら、区内市立小学校全校（15校）と中央支援学校にビオトープを整備することができ、取組を深化させていく基盤をつくることができました。
- ・生物多様性に関する内容を中心とした環境学習支援を継続的に実施することができ、児童や教職員に対して「エコシティたかつ」の普及啓発を行うことができました。

【課題】

- ・各校に対する環境学習支援について、「流域思考⁹」や気候変動適応策に関する内容を充実させていく必要があります。
- ・整備したビオトープを地域のモデル基地として活用するため、児童や教職員のみならず、地域への働きかけを行っていくことが必要です。

⁸ 動植物の生息場所のこと。

⁹ 物事を「流域単位」で考えること。

(2) たかつの自然の賑わいづくり事業

【目的】

専門家と水や緑、生き物、植物の調査を行い、さまざまな活動を通じて、気候変動適応策・生物多様性保全への貢献を市民協働で行います。

【主な取組】

●たかつ水と緑の探検隊（平成 23（2011）年～）

- ・市立緑ヶ丘霊園内の森において、生物の生育状況や保水力の状態の調査を行い、調査結果を踏まえて、外来植物の駆除作業や保水力向上の取組、湧水¹⁰の整備による水辺の創出に向けた取組等を実施

●たかつ生きもの探検隊（平成 27（2015）年～）

- ・専門家と一緒に緑ヶ丘霊園内の森を観察し、生きもの探しなどを行う小学生を対象としたイベントを実施

【成果】

- ・「たかつ水と緑の探検隊」については、市立緑ヶ丘霊園の森をモデル地区とした継続的な取組により、生物多様性や保水力向上等の気候変動適応策に係る森の再生についての実践的な取組ができています。
- ・「たかつ生きもの探検隊」については、親子で楽しみながら、生物多様性や気候変動適応策の考え方に触れられる機会を継続的に提供できています。
- ・「たかつ水と緑の探検隊」、「たかつ生きもの探検隊」とともに、平成 30（2018）年度実施時のアンケートでは、参加した全ての方から「エコシティたかつへの理解が深まった」との回答が得られました。
- ・区内で発見された準希少植物について、株式会社富士通ゼネラル、NPO 法人鶴見川流域ネットワーク、高津区役所の三者が連携し、域外保全¹¹を実施することができました。

【課題】

- ・「たかつ水と緑の探検隊」については、これまでの成果等を踏まえ、今後の整備状況に応じた検討が必要です。



たかつ水と緑の探検隊



たかつ生きもの探検隊

¹⁰ 泉とも呼ばれ、地中にある地下水が自然に出口を見つけて湧き出したものをいう。

¹¹ 絶滅危惧種を守るため、安全な施設に生きものを保護して、それらを増やすことにより絶滅を回避する方法。

(3) 橘地区の農的資源を活かしたまちづくりの推進

【目的】

高津区、特に橘地区における地域資源を活用した地域レベルからの地元意識、ふるさと意識の醸成に寄与するとともに地域活性化に寄与する取り組みを、総合的かつ多面的に行うため、市民による「たちばな農のあるまちづくり」推進会議を設置し、協働で推進します。

【主な取組】

- 地域の魅力を再発見し、食と農を通じた区民の交流を促すとともに、地産地消¹²を進め、地場産野菜を地元で食する機会を拡充しました。
 - ・ファーマーズマーケット「高津さんの市」の開催（平成 22（2010）年～）
 - ・農産物の直売所等を掲載した「たちばな農のあるまちづくり おさんぽマップ」の作成（平成 21（2009）年～）
- 農のある風景と暮らしを、次代に伝えるための活動を創出・拡大しました。
 - ・農業体験イベントやまち歩きイベントの開催（平成 22（2010）年～）
 - ・たちばな風景撮影ツアーとたちばな風景写真展の開催（平成 24（2012）年～）
- 食と農の交流拠点機能を整備し、拠点との連携を行いました。
 - ・地域交流拠点「メサ・グランデ」との連携（平成 23（2011）年～）
- 地産地消と子どもの食育を結ぶ活動を行いました。
 - ・農業体験イベントの開催（再掲）
 - ・地産地消の料理教室の開催（平成 30（2018）年～）

【成果】

- ・「高津さんの市」では、実施当初から着実に来場者数を伸ばしており、地域のイベントとしてしっかり定着していることから、地産地消への理解を図るとともに、農家と区民の交流を促すことができました。
- ・農業体験イベントでは、地場産野菜、地元農家と触れ合いながら「食」と「農」を体感して学ぶことで、都市農業の重要性への理解を図ることができました。
- ・写真ツアー、写真展を市民参加により実施し、区の地域資源である「たちばな地区の農のある風景」の魅力を効果的に発信することができました。
- ・区内の直売所マップに、地域の見どころや「たちばな農のあるまちづくり」の取組の紹介もまとめたPRパンフレット「おさんぽマップ」を市民協働で作成し、区内外で発信しました。
- ・東京ガス株式会社と連携して小学生の親子を対象に「エコ・クッキング¹³」を実施し、地産地消と食を考える機会の創出と、農のあるまちづくりへの関心の輪を広げることができました。

【課題】

- ・取組の認知度をより一層広げるため、新たな手法の導入を検討する必要があります。

¹² 地域で生産された様々な生産物や資源をその地域で消費すること。

¹³ 環境を思いやりながら、「買い物」「調理」「食事」「片づけ」をすること。

(4) 区役所庁舎のエコシティホール化の推進

【目的】

区役所庁舎を環境展示場「エコシティホール」として整備し、環境学習の場として活用するとともに、関連データの収集や情報発信を行いつつ、モデル事業者としての区役所の実践を示します。

【主な取組】

- ・区役所を環境展示場として整備（平成 21（2009）年～）：屋上緑化、壁面緑化（緑のカーテン）、雨水利用、太陽光発電システム整備、遮熱塗装、階段ペイント、人感センサーLED設置、ビオトープ設置、光触媒を活用した区役所庁舎看板設置、ペットボトルキャップベンチ設置等
- ・エコシティホールツアーの実施（平成 21（2009）年～）

【成果】

- ・区役所の率先した取組や地球温暖化防止活動推進センターとの連携により、エコシティホールツアーには累計 450 名以上の参加があり、「エコシティたかつ」の理念や環境意識の啓発を体験を通じて行うことができました。



エコシティホールツアー



区役所庁舎での緑のカーテン

(5) 各種環境普及啓発活動の推進

【目的】

区民の気候変動適応策や生物多様性保全等に関する意識啓発を図るとともに、「エコシティたかつ」の取組に対する理解向上を図ります。

【主な取組】

- 「エコシティたかつ」推進フォーラム（平成 21（2009）年、平成 24（2012）年～）
 - ・ 学校ビオトープ交流会、環境活動発表会、気候変動適応策に関する講演会等を実施しました。
- 川崎国際環境技術展への出展（平成 22（2010）年～平成 24（2012）年）
 - ・ 区役所若手職員を中心として「エコシティたかつ」のPRを行いました。
- たかつエコシティツアー（平成 28（2016）年～）
 - ・ 区内を中心として、気候変動適応策や生物多様性保全などのエコに関する取組を見学するツアーを開催しました。
- おうちビオトープ大作戦（平成 28（2016）年）
 - ・ 身近なアクションの提案として、自宅等でビオトープを設ける意義や方法等を紹介する講習会を開催するとともに、Facebook や Instagram、地域情報紙にて取組の募集を行い、その内容の広報を行いました。
- 株式会社丸井からのレジ袋削減に伴う寄付金の受納（平成 20（2008）年～）
 - ・ 買い物の際にレジ袋を辞退すると一定額を地元の環境保全に役立てるために寄付することができるキャンペーンがマルイファミリー溝口（まるい食遊館）で実施されています。寄付先は高津区役所（「エコシティたかつ」推進事業）またはNPO法人多摩川エコミュージアムから選ぶことができ、これまでに高津区役所へ寄付された累計額は2,136,074円となりました。（平成 31（2019）年3月時点）
- JR武蔵溝ノ口駅デジタルサイネージにおける「エコシティたかつ」の広報の実施（平成 30（2018）年～）
 - ・ 平成 29（2017）年度に「エコステ」となった武蔵溝ノ口駅に設置されているデジタルサイネージにて「エコシティたかつ」の広報画像を放映。

【成果】

- ・ さまざまな普及啓発活動の実施により、地道ながらも着実に「エコシティたかつ」の理念や環境意識の啓発を行うことができました。特に、「エコシティたかつ」推進フォーラムでは、参加団体間の交流が生まれるとともに、参加した区内小学校児童の保護者に対する啓発にもつながりました。

【課題】

- ・ 着実に環境意識の高まりが見える中で、平成 28（2016）年度「高津区区民生活に関わるニーズ調査」の結果を見ると、「エコシティたかつ」推進事業の認知度は低く、効果的な普及啓発手法について検討を行い、多様な主体との連携等によりさらなる普及啓発の取組を行っていく必要があります。

(6) 「エコシティたかつ」推進のための体制作り

【目的】

「エコシティたかつ」の実現に向けて、様々な主体が参加し、主体間の連携やプロジェクト間の調整、市域全体との連携・調整、多様な媒体を活用した効果的な情報発信等を行う推進体制を構築します。

【主な取組】

- ・「エコシティたかつ」推進会議の定期的な開催（平成 20（2008）年～）

【成果】

- ・「エコシティたかつ」推進会議には、学識経験者や各種団体、民間事業者、公募の委員、行政関係者等が参加し、各委員（団体）同士の連携や「エコシティたかつ」の基本目標達成に向けた取組を推進するための安定的な体制を築くことができました。

【課題】

- ・より多くの区民に「エコシティたかつ」の理念や目標等を共有し、取組に参加してもらったり各主体間の協働・連携をより一層促進していく体制づくりが課題となっています。



「エコシティたかつ」推進フォーラム



たかつエコシティツアー

(7) 小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト

【目的】

流域での自然の地形（大地のデコボコ）を前提とした水の流れや気候変動適応策を考える機会を区民に提供します。

【主な取組】

- ・「エコシティたかつ」推進会議委員である明治大学の田中教授の研究室との協働により、橘小学校及び南原小学校とその周辺敷地を対象として、3次元スキャナーを用いたデータ計測を行い、その成果物を用いて、橘小学校及び南原小学校において出張授業を実施（平成29（2017）年～）

【成果】

- ・「学校流域プロジェクト」の次段階の取組として、小学校という子どもたちをはじめとした地域住民に身近な場所を3次元スキャナーで計測し、気候変動適応策について学び、考えるための素材（3D¹⁴データ及び2,000分の1スケールの学校敷地周辺立体地形図）を作成することができました。また、3Dデータ等を用いて気候変動適応策の考え方を子どもたちに伝えることができました。

【課題】

- ・子どもたちをはじめとしたより多くの人たちに、より効果的に気候変動適応策の考え方を伝えるため、より多くの場所・範囲で3Dデータを作成するとともに、3Dデータを用いて気候変動適応策の考え方を伝えていける人材の育成が必要です。



橘小学校での出張授業風景



南原小学校及びその周辺敷地の
3Dムービーの一部（画像）

¹⁴ 3次元のこと。

(8) 地図による地域環境資源の共有化の促進

【目的】

多様な地域情報を入れたベースマップを作成し、地域の地形的な特性や環境資源を的確に把握し、施策展開のあり方を検討する際の基礎的データのひとつとして活用します。また、ベースマップを活用することにより、「エコシティたかつ」の推進に関わる多様な主体が意見交換を有効に進め、共通認識を持つことを目的とします。

【主な取組】

- ・4,000分の1スケールの高津区の立体地形図を作成（平成21（2009）年）
- ・高津区の流域（小流域）区分マップ等を作成し、「エコシティたかつ」ホームページで公開（平成22（2010）年）
- ・首都大学東京との連携による市民参加型のヒートアイランド¹⁵調査、クールスポット調査の実施によるマップ作成（平成21（2009）年～平成23（2011）年）
- ・流域界や過去の浸水被害箇所を記載し、大地の高低差が視覚的に確認できる「高津区流域地形地図（たかつ凸凹マップ）」を作成（平成27（2015）年）

【成果】

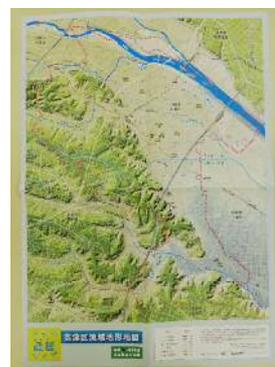
- ・4,000分の1スケールの立体地形図は「エコシティたかつ」の考え方をイベント参加者等に視覚的に理解してもらうことに寄与しています。
- ・高津区流域地形地図（たかつ凸凹マップ）は区民等の関心を引きつけるものとなっており、県立向の岡工業高校にて、本市が協力し、高津区流域地形地図（たかつ凸凹マップ）を活用した授業（フィールドワーク）が実施されるなど、高津区流域地形地図（たかつ凸凹マップ）を活用し、「エコシティたかつ」の理念や気候変動適応策の考え方を区民等に分かりやすく伝えることができました。

【課題】

- ・各種マップ等の統合・情報の充実について検討する余地があります。



高津区立体地形図



高津区流域地形地図（たかつ凸凹マップ）

¹⁵ 都市域において、人工物の増加、地表面のコンクリートやアスファルトによる被覆の増加、それに伴う自然的な土地の被覆の減少、さらに冷暖房などの人口排熱の増加により、地表面の熱収支バランスが変化し、都心域の気温が郊外に比べて高くなる現象。

(9) その他の取組

- エコ企業調査として、民間企業等7事業所等を視察
(平成21(2009)年、平成23(2011)年～平成25(2013)年)
- 区民との協働により、たかつ花街道における花壇の維持管理やキラリデッキ花壇植栽体験を実施(エコシティたかつ推進方針策定以前から継続して実施)
- 「まちなか油田プロジェクト」として、区内約30箇所の拠点で廃食用油を回収するとともに、リサイクル石けん等の資源循環に関する取組を推進
(平成21(2009)年～平成22(2010)年)

(10) 当初の推進方針で示されていた中長期的なプロジェクト案及び「これからの検討課題」の取組状況

中長期的な視点からのまちづくりについては、川崎市総合計画に基づき取組を進めてきました。

円筒分水、かすみ堤を活かした「緑の回廊¹⁶」づくりの推進については、地域住民を中心として組織された管理運営組織(久地円筒分水サポートクラブ)との協働により円筒分水修景施設の維持管理を行うとともに、円筒分水スプリングフェスタ等で活用をしています。また、かすみ堤については、国との長期にわたる交渉の末、平成29(2017)年に国が河川区域に再編入させることを決定したことにより、保全が完了しました。

小さな循環・生ごみリサイクルシステムの構築については、環境局において、生ごみリサイクルの活動を長く経験し、知識を有する市民の方を「川崎市生ごみリサイクルリーダー」として認定し、生ごみリサイクルに取り組む市民の方々の相談・指導等を行うために派遣する「生ごみリサイクルリーダー派遣制度」を平成21(2009)年から開始しました。また、平成22(2010)年からは生ごみリサイクル活動を行う団体への助成金制度を創設し、取組を推進しています。

水の道調査に基づく復元水系図の作成については、建設緑政局において、二ヶ領用水の歴史や用水の仕組み、用水路の移り変わりなどをわかりやすく理解できるよう平成23(2011)年に「二ヶ領用水知絵図(改訂版)」を市民との協働により作成しました。

仮称「たかつ地域水循環計画」の検討については、平成24(2012)年に「川崎市水環境保全計画」が策定され、この計画とも連携する形で「エコシティたかつ」推進事業が進められてきました。

また、環境負荷の小さい地域交通政策の検討の一環として、燃料電池自動車を公用車として導入し、これを活用した啓発を実施するなど、燃料電池自動車普及に向けた取組を市として進めています。

¹⁶一般的には、野生生物の生息地間を結ぶ、野生生物の移動に配慮した連続性のあるネットワークされた森林や緑地などの空間を言い、生態系ネットワークなどと呼ばれることもある。

行政区レベルでの環境マネジメント¹⁷の実践的な取組としては、高津区地域課題対応事業の全ての事業について、予算要求などの次年度事業検討の機会において環境配慮の視点から事業の見直しを行っています。

また、平成 29（2017）年に改定された川崎市都市計画マスタープラン¹⁸に基づき、流域を視野に入れた総合的な治水対策や環境政策と都市政策を連動させたまちづくりをめざしています。

さらに、環境政策、経済政策、社会政策に対して統合的アプローチを進め、循環型都市構造への転換などに取り組むことにより、コミュニティの持続可能性を高める必要性を踏まえて、コミュニティの在り方についての検討を全市レベルで進めています。



キラリデッキ花壇植栽体験



久地かすみ堤

¹⁷事業者が自主的に環境保全に関する取組を進めるに当たり、環境に関する方針や目標等を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくこと。

¹⁸ 都市計画法第 18 条の 2 に基づく「市の都市計画に関する基本的な方針」として定めるもので、市民の意見を反映した上で、将来の都市像（市街地像）を展望し、土地利用の方針や都市施設整備の方針、市街地整備の方針を示している。

3 地球温暖化の現状、社会状況の変化等

(1) 地球温暖化の現状

私たちがすむ地球は、異常気象や局地的豪雨、洪水、絶滅種の増加など、依然として大変な環境危機にさらされています。

温暖化の原因となる二酸化炭素の濃度は、工業化が進む前の寛延3（1750）年にはおよそ280ppmでしたが、平成17（2005）年にはおよそ380ppmと増加し、平成30（2018）年時点では400ppmを超える状況となっています。

世界の平均気温について、国連気候変動に関する政府間パネル¹⁹（以下「IPCC」という）の第5次報告書によると、平成93（2081）年から平成112（2100）年までの世界の平均地上気温は、昭和61（1986）年から平成17（2005）年までの20年間の平均から、厳しい温暖化対策を採らなかった場合で2.6℃から4.8℃上昇するとされています。また、世界平均地上気温が上昇するにつれて、中緯度の陸域のほとんどと湿潤な熱帯域において、今世紀末までに極端な降水がより強く、より頻繁となる可能性が非常に高いともされています。

また、環境省レッドリストによれば、日本における絶滅危惧種の数は平成24（2012）年に3430種だったものが平成30（2018）年には3675種に増加しており、生物多様性の損失が課題となっています。

さらには、IPCCの第5次報告書によれば、気温上昇、異常気象の増加、海面上昇などの温暖化の影響はたとえ温室効果ガス²⁰の人為的な排出が停止したとしても、何世紀にもわたって持続するだろうと予測されています。

(2) 社会状況の変化

平成21（2009）年の「エコシティたかつ」推進方針の策定以後、地球温暖化対策等に関する社会状況にもさまざまな変化がありました。

パリ協定²¹の合意や国の地球温暖化対策計画²²の策定、各種法改正等により、地球温暖化対策等に関する取組がさまざまな社会・経済システムに組み込まれてきています。

¹⁹ 各国政府の気候変動に関する政策に科学的な基礎を与えることを目的とする組織。195の国と地域が参加し、5～7年毎にその間の気候変動に関する科学的知見の評価を行い、その結果をまとめた報告書を作成・発表している。

²⁰ 大気中の二酸化炭素やメタンなどのガスは太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を暖める働きがある。これらのガスを温室効果ガスという。地球温暖化対策の推進に関する法律では、二酸化炭素（CO₂）、メタン（CH₄）、一酸化二窒素（N₂O）、ハイドロフルオロカーボン類（HFCs）、パーフルオロカーボン類（PFCs）、六ふっ化硫黄（SF₆）及び三ふっ化窒素（NF₃）の7種類の温室効果ガスが規定されている。

²¹ 全ての国が地球温暖化の原因となる温室効果ガスの削減に取り組むことを約束した枠組み。世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べ、2℃より十分に低く抑え、さらに1.5℃以内に向けた努力の追求などが盛り込まれている。

²² 地球温暖化対策の総合的かつ計画的な推進を図るため、政府が地球温暖化対策法に基づいて策定する、我が国唯一の地球温暖化に関する総合計画。温室効果ガスの排出抑制及び吸収の目標、事業者、国民等が講ずべき措置に関する基本的事項、目標達成のために国、地方公共団体が講ずべき施策等について記載されている。

平成 23（2011）年 3 月に発生した東日本大震災後、複数の発電所が停止し電力需給が逼迫したことにより、省エネ意識の徹底や再生可能エネルギーに対する注目の高まりなど、エネルギーに関する環境が大きく変化しました。

「エコシティたかつ」推進方針に関連が深い動向としては、平成 27（2015）年に国が気候変動の影響への適応策を計画的かつ総合的に進めるため、「気候変動の影響への適応計画」を策定したことが挙げられます。この適応計画は、気候変動の影響による国民の生命、財産及び生活、経済、自然環境等への被害を最小化あるいは回避し、迅速に回復できる、安全・安心で持続可能な社会の構築を目指しており、自然生態系や自然災害・沿岸域、国民生活・都市生活などの 7 分野における取組等を設定しています。また、平成 30（2018）年 12 月には国、地方公共団体、事業者、国民が気候変動適応の推進のため担うべき役割を明確化した「気候変動適応法」が施行されました。さらに、本市においても、平成 26（2014）年には「生物多様性かわさき戦略」が策定されたほか、国の動向を踏まえ、平成 30（2018）年には適応策も含めた「川崎市地球温暖化対策推進基本計画」が策定されました。

地球温暖化対策は、緩和策（温室効果ガス排出の削減や吸収策）と適応策（気候変動がもたらす水災害や生物多様性の損失等、悪影響への対応策）の両輪によって進めていくことがますます重要となっています。



区役所屋上の太陽光パネル

4 「エコシティたかつ」基本理念と基本目標

(1) 「エコシティたかつ」の基本理念

地球環境危機の時代に対応した、自然の賑わいとともにある持続可能な循環型都市構造の再生と創造

高津区は、南に広がる下末吉台地地域と北側の多摩川方向に開けた平坦地、並びにそれらの境界に伸びる多摩川崖線のベルトで構成され、農地や、崖線²³にそった緑が多く残っており、多摩川や平瀬川、矢上川、二ヶ領用水などの水系にも恵まれています。このような地形・水系・緑の配置をふまえ、温室効果ガス排出の削減吸収策とともに、水災害への対応ならびに生物多様性の保全に長期的なスパンでより一層つとめてゆく必要があります。

「エコシティたかつ」推進方針策定から10年近くが経過した現在においても、市民健康の森や二ヶ領用水における取組をはじめとする緑や水の保全を目指す活動や、廃食油や落葉・生ごみリサイクルなど、様々な市民活動が行われており、市民や企業などの環境に対する意識もより一層の高まりを見せています。行政のみでは解決できない課題について、市民、企業、学校、行政等の協働によるさらなる対応が求められます。

このような地球環境における現状と課題がある中で、地域から環境課題の解決に向けた取組を継続的に進めていくことが大切です。引き続き、高津区で生活し、学び、働き、活動する私たちは、100年後のたかつのまちのために、いま、私たちにできることを、行動に結びつけていくことが必要です。私たちは、地域社会の一員として、高津区の特性を活かし、地球環境危機の時代に対応した、自然の賑わいとともにある持続可能な循環型都市の再生と創造をめざし、取組を進めます。この取組により、「生活の質」を問い直し、高めながら、より豊かな社会への転換を図ります。

²³台地などの平坦面から谷底面に向かう崖状の斜面が、川に沿って連続している地形や場所をさし、斜面緑地として残っている場合が多い。また、湧水がある場合もある。

「自然の賑わい」とは…

生物多様性条約“Convention on Biological Diversity”では、“biological diversity”は、生物の種の多様性、遺伝の多様性、生態系²⁴の多様性と定義されています。この生態系の定義の仕方は、一部では、複雑な相互関係で結びついた生物の高次の組織などとして定義されています。

しかし、伝統的に生態系とは、流域や丘陵など地べたを含むものというほかありません。

めずらしい生きものだけを守るのではなく、まちにある池や湿地、森などの多様な生態系を守れば同時にたくさんの生きものを守ることができます。そのため、生きものに注目する時は“生きものの賑わい”、両方を総合的に言う時には“自然の賑わい”という言葉を使うようにしています。



市立中央支援学校のビオトープ



学校流域プロジェクトでは、トンボが羽化する瞬間に遭遇

²⁴川、沼、水田、山林など、あるまとまりを持った自然環境と、そこに生息するすべての生きもので構成される一体の環境をいい、これらをとりまく非生物的環境要因（太陽光、降雨、その他）も含む。

(2) 「エコシティたかつ」実現のための基本目標

- I 低炭素・省資源社会の実現
- II 自然共生型都市再生の推進
- III 地域に即した防災まちづくりの推進

I 低炭素・省資源社会の実現

- 市民一人ひとりが、省エネや再生可能エネルギーの活用などについて理解を深め、身近なアクションをおこすことにより、地域（地球）の二酸化炭素の削減につなげ、資源を有効に活用します
- アクションを通じて環境を大切にする心（エコ・マインド）を育み、ライフスタイルの変革を促すことで、「生活の質」を再考し、その向上と、豊かな市民生活の実現、新たな文化・価値創造をめざします
- 国の地球温暖化対策計画や川崎市地球温暖化対策推進基本計画など、国や川崎市の計画と連動し、地域から実践します

II 自然共生型都市再生の推進

- 水系や流域、丘陵、崖線、谷戸²⁵などのランドスケープ²⁶を重視した緑の保全と創造に取り組めます
- 農的空間（市街化区域²⁷内の生産緑地地区内農地、市街化調整区域²⁸内の農地等）を活かした緑豊かなまちづくりを進めます
- 国の生物多様性国家戦略²⁹の趣旨や、川崎市の環境基本計画³⁰、緑の基本計画³¹、生物多様性かわさき戦略等を踏まえ、生命（いのち）の賑わい豊かな自然共生型の都市再生を、地域から推進します
- 川崎市都市計画マスタープランを踏まえて、人と自然が共生する視点からの都市づくりを目指します

²⁵台地や丘陵地が湧水などの浸食によって複雑に刻み込まれた地形をいう。雑木林からわき出た湧水と清流が特徴。この清流を集めて古くから谷戸の水田（谷戸田）が行われてきた。このような雑木林、清流、水田のある谷戸の環境は、多様な生きものが生息する地域である。地域によっては「谷津」「谷地」とも呼ばれている。

²⁶地形を基本とした景観のことをいう。流域の河川景観においては、山、水面、植生などの自然物と、それに人為的な作用を受けた土地及び建物や土木構造物から構成される。

²⁷都市計画法に基づく区域区分の一つ。既に市街地を形成している区域及びおおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域のこと。

²⁸都市計画法に基づく区域区分の一つ。市街化を抑制すべき区域。

²⁹生物多様性条約及び生物多様性基本法に基づく、生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する国の基本的な計画。平成7（1995）年に最初の生物多様性国家戦略を策定し、これまでに4度の見直しを行っている。

³⁰市の環境行政を総合的かつ計画的に推進するため、川崎市環境基本条例第8条に基づき策定されたもの。計画では、計画全体の目標となる「めざすべき環境像」や計画がめざす「6つのまちの姿」を明らかにするとともに、これらの実現に向けて取り組む重点分野や基本的施策の内容、目標等を定めている。

³¹都市緑地法に基づき、緑地の保全、緑化の推進及び都市公園の整備等を総合的に進めるための目標と施策を位置づけた基本計画。

Ⅲ 地域に即した防災まちづくりの推進

- 局地的豪雨や台風の巨大化等による洪水や、渇水の深刻化など、気候変動によって増大すると予想される災害に適応しうる流域視野の地域の地形や水循環の特性に即した「水災害適応型都市」づくりを推進します
- 家庭や学校における雨水貯留・雨水利用・緑の保全による地下水の涵養等、流域を意識した治水の実践を足元から積み上げます



市立緑ヶ丘霊園の谷戸（整備前）



市立緑ヶ丘霊園の谷戸（整備後）



子母口小学校の池のビオトープと雨水の貯留・利用のための雨水樽

5 「エコシティたかつ」の実現に向けた基本的考え方

「エコシティたかつ」の実現に向け、前述の3つの基本目標に対する取組を展開する際のポイントとして、次の4点を整理しました。

- (1) 環境的・社会的・経済的持続可能性の実現
- (2) 地域の流域特性に根ざした事業推進
- (3) 多様な主体の協働・連携による推進、区民の参加促進と担い手の育成
- (4) 区の事務事業の環境視点からの見直しと総合的展開

(1) 環境的・社会的・経済的持続可能性の実現

環境的持続可能性を実現するためには、同時に、社会的・経済的な視点からの取組も必要です。「川崎市地球温暖化対策推進基本計画」では、地球温暖化対策等が産業振興や防災等の経済・社会的側面にも関わるまちづくりの諸課題の解決に資することを踏まえ、地球温暖化対策等によって得られる多様な便益（マルチベネフィット³²）に着眼することを基本理念としています。「エコシティたかつ」の推進においても、環境的視点を重視しながらも、社会的視点や経済的視点を取り入れた取組を推進することにより、持続可能な都市をめざします。また、これらの考え方は、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むというSDGs³³の考え方に沿うものでもあります。

(2) 地域の流域特性に根ざした事業推進

「平成30年7月豪雨」や「平成29年7月九州北部豪雨」等、近年、西日本を中心として、毎年のように被害が甚大な豪雨災害が起きており、気候変動適応策の考え方や取組はますます重要となっています。

高津区には、下末吉台地面、その崖線、台地に刻まれた谷戸群、そして多摩川方向に開かれた低平地の4つの特徴的な地形があり、これらが大小の流域に区分されます。高津の基本的な地形に配慮し、それぞれの流域に根ざした緑地保全や健全な水循環系システムを構築することは、地球温暖化に伴う自然災害への適応策として、市民が安全に暮らしていくことのできる水災害に強い都市の基盤づくりとなります。また、場合によっては、地域の流域特性を踏まえて区における防災関連の取組と連携することで効果的に事業を推進す

³² 今後、地域における地球温暖化対策等が、さまざまな社会・経済システムに組み込まれながら取組が進められ、また、それにより産業振興、防災対策、健康維持等の多様な課題の解決に貢献し、多様な便益（マルチベネフィット）をもたらすと考えられる。例えば、各主体の連携・協働により、地球温暖化対策の普及啓発や取組を進めていくことは地域コミュニティの活性化にも資するものであると考えることができ、また、再生可能エネルギーの導入等は、地球温暖化対策であると同時に、災害時におけるエネルギー供給という点で防災に資する取組ともなり得る。「マルチベネフィット」とは、このように地球温暖化対策等によりもたらされる多様な便益のことを指すものである。

³³ 平成13（2001）年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された平成28（2016）年から平成42（2030）年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものとなっている。

ることができると考えられます。

さらに、流域特性に応じたランドスケープデザインの視点から、良好な景観づくりにも取り組みます。

(3) 多様な主体の協働・連携による推進、区民の参加促進と担い手の育成

区民、企業、学校、行政等の多様な主体が情報共有を進め、共通の目標に向かって、それぞれの役割と責任の中でできることを行い、連携することで大きな推進力を生み、相乗的な事業展開や新たな取組の誘発につなげることが大切です。さらに、テーマによっては区内だけではなく、他の地域と連携することが必要となることも考えられます。

また、協働・連携による推進力をより一層大きなものとしていくためには、普及啓発活動や環境教育・学習などを通じた「エコシティたかつ」への参加促進と、地域での協働の担い手となる人材育成や活動支援が重要です。

「エコシティたかつ」への「参加」の具体例としては、「エコシティたかつ」の各種事業への参加のほか、地球温暖化の緩和策としては、エアコンの温度設定やごみの分別・リサイクル等による省資源の取組が挙げられます。また、適応策の取組としては、洪水ハザードマップや高津区流域地形地図（たかつ凸凹マップ）を活用し、水害の危険性への理解を深め、備えることが挙げられますし、生物多様性保全の取組としては、自宅の敷地等において小さなビオトープを設けてみることなどが挙げられます。

(4) 区の事務事業の環境視点からの見直しと総合的展開

地域課題対応事業を中心とする高津区の事業を環境的視点から捉え直し、必要に応じて区役所が実施する各事業間の連携を進めることにより、効果的・効率的に「エコシティたかつ」を推進していきます。

ちょっとひと休み・・・

「健全な水循環系システム」とは…

降った雨が地中にしみこみ、それが川や地下水となって、海へ流れ、水蒸気となって雲となり雨になる、という水の循環があります。その水の循環のあり方が人々の暮らしを脅かさず、健全で豊かな産業や自然を支え、またそれぞれにバランス良く、良い効果を与えることを水循環の健全化を図るといいます。治水も含み、ハード、ソフト、両方のシステムを表します。

6 「エコシティたかつ」の推進体制

(1) 「エコシティたかつ」推進会議の設置

「エコシティたかつ」の実現のため、各主体による対話と協働、調整の場として、引き続き、区民・市民グループ・事業者・学識経験者等で構成する「エコシティたかつ」推進会議を設置します。

(2) 「エコシティたかつ」推進会議の役割

「エコシティたかつ」推進会議は、地域で活動する各主体の自発的な活動を促すとともに、各主体間の協働や連携を進めることで、「エコシティたかつ」の推進基盤を強化する役割を担います。

また、多くの市民に「エコシティたかつ」の理念や取組が理解されるよう様々な取組への参加を呼びかけるとともに、取組の内容や手法、取組の成果について意見します。

(3) 方針の見直しの仕組み

「エコシティたかつ」推進方針は、社会状況の変化等により、必要に応じて内容の見直しを行っていくものです。方針の見直し・改定にあたっては、「エコシティたかつ」推進会議が主体となり、見直しのプロセスはホームページ等で広く区民に公開していきます。



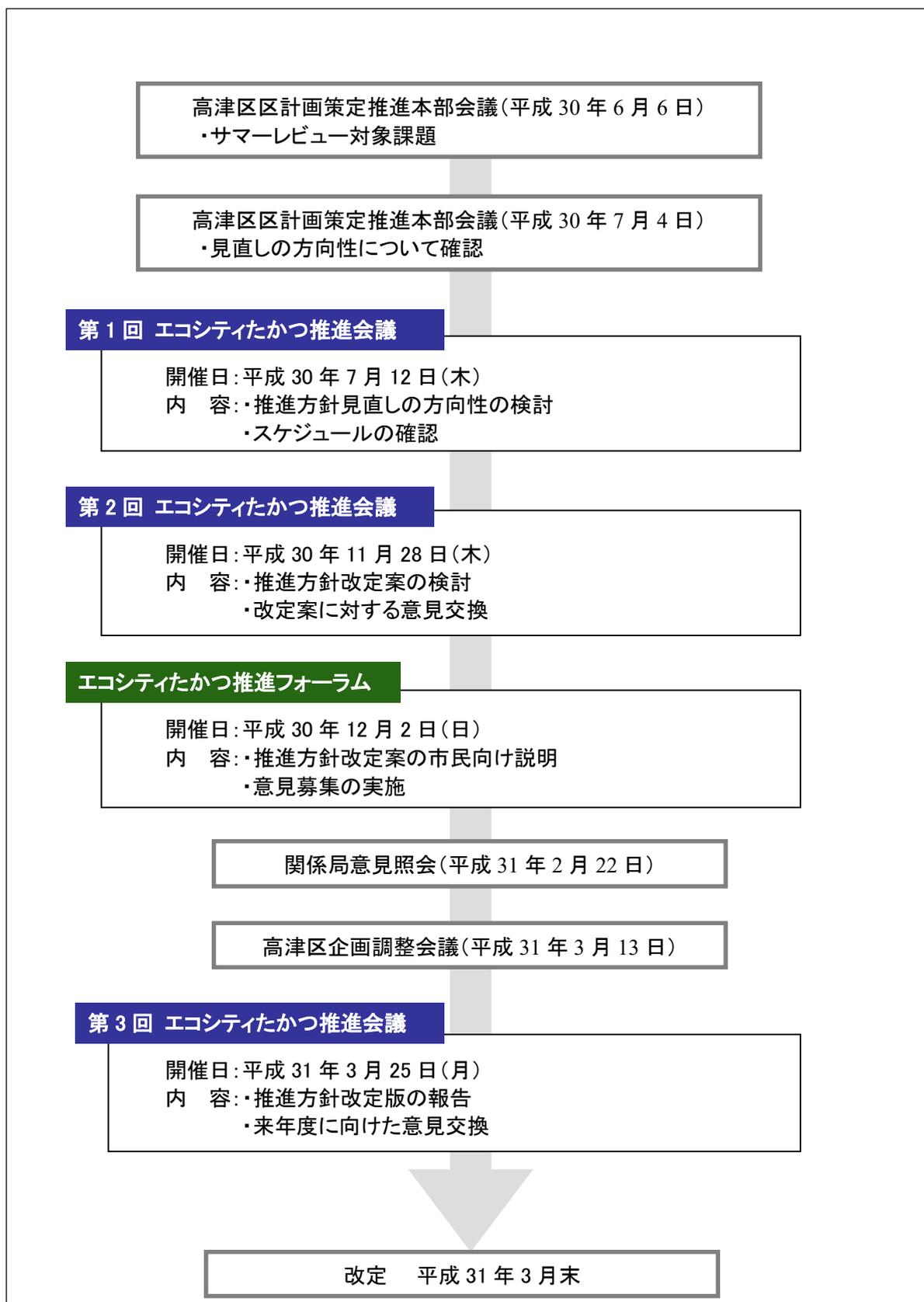
「エコシティたかつ」推進会議

資料編

資料1 平成30年度「エコシティたかつ」推進会議 委員名簿

氏名	所属等
岸 由二	慶應義塾大学 名誉教授
田中 友章	明治大学理工学部 教授
竹井 斎	川崎市地球温暖化防止活動推進センター センター長
徳武 道雄	高津区市民健康の森を育てる会 相談役
加藤 伸子	高津区まちづくり協議会
仲村 美津子	たちばな農のあるまちづくり推進会議 委員長
中村 逸	公募委員
住田 三枝子	公募委員
櫻井 良雄	公募委員
遠藤 慶子	公募委員
須藤 かおり	公募委員
平澤 克己	NECプラットフォームズ株式会社 (区内企業)
赤松 文梧	株式会社川崎フロンターレ (区内企業)
下山 憲一	株式会社富士通ゼネラル (区内企業)
渡辺 研二	マルイファミリー溝口 副店長
井上 恵子	川崎市立小学校長会高津支部 (梶ヶ谷小学校長)
石井 芳宏	川崎市教育委員会 総合教育センター カリキュラムセンター 指導主事
齋藤 俊啓	川崎市高津区役所 副区長
岩上 淳	川崎市環境局総務部環境調整課 課長
川合 健一	川崎市環境局地球環境推進室 計画推進・環境技術支援担当課長
河合 征生	川崎市建設緑政局総務部企画課 課長
押田 春美	川崎市高津区役所保健福祉センター (学校・地域連携担当) 担当課長
井上 久子	川崎市高津区役所道路公園センター 協働推進担当課長
【事務局】	
中谷 明美	高津区役所まちづくり推進部企画課 課長
佐々木 裕	高津区役所まちづくり推進部企画課 担当係長
大橋 貴司	高津区役所まちづくり推進部企画課 主任
戸田 薫	高津区役所まちづくり推進部企画課
松田 稚菜	高津区役所まちづくり推進部企画課
【コンサルタント】	
福田 敬	株式会社カイト 地域計画部

資料2 「エコシティたかつ」推進方針改定の検討経過



資料3 平成31（2019）年度以降の当面の取組

（川崎市総合計画第2期実施計画に掲載している主な取組等）

＜基本目標＞

- I 低炭素・省資源社会の実現
- II 自然共生型都市再生の推進
- III 地域に即した防災まちづくりの推進

	I	II	III
<p>●学校流域プロジェクト</p> <p>学校を、健全な水循環と生き物の賑わいを再生し支える地域のモデル基地と位置づけ、これまでに整備したビオトープ等を学習活動、地域との交流活動等に活用します。活用にあたっては、これまで中心となっていた生物多様性の視点に加えて、気候変動適応策の視点も加えていくことを目指します。また、教職員向け研修会についても、引き続き実施していきます。</p>	○	◎	◎
<p>●たかつの自然の賑わいづくり事業</p> <p>市立緑ヶ丘霊園の谷戸の森をモデル地区として取組を進めてきた「水と緑の探検隊」については、森の再生に向けて着実に成果が出ていることから、今後も「エコシティたかつ」推進会議で方向性を確認しながら継続的に取組を進めていきます。また、「たかつ生きもの探検隊」についても、区民のニーズが高い事業であるため、引き続き実施していきます。</p>	○	○	○
<p>●「エコシティたかつ」推進フォーラム等、普及啓発イベントの実施</p> <p>「エコシティたかつ」への参加促進や多様な主体の連携により取組を進めていくため、「エコシティたかつ」推進会議の構成団体等との協働で、区民向けの啓発イベント等を実施します。</p>	◎	○	○
<p>●橘地区の農的資源を活かしたまちづくりの推進</p> <p>特に、橘地区にある緑地等の環境資源、市街化調整区域内農地を中心とした営農活動等の地域資源を活かし、地域間交流の活性化、情報発信等に取り組みます。また、取組の認知度を一層広げるため、区内の地域資源の活用と連携について検討していきます。</p>	○	◎	○



高津さんの市



区民ミニガーデンによる花壇の整備

	I	II	III
<p>●「緑と水でつなぐ 歴史街道 花街道」(緑化推進重点地区計画)の推進</p> <p>平成20(2008)年に策定された「溝口駅周辺地区緑化推進重点地区計画³⁴」に基づき、溝口駅周辺市街地の都市緑化や良好な緑の景観づくりを進めます。</p>	○	◎	○
<p>●小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト</p> <p>子どもたちをはじめとした区民に、より効果的に気候変動適応策の考え方を伝えるため、より多くの場所・範囲で3Dデータを作成し、それらを用いて気候変動適応策の考え方を伝えていける人材の育成について検討します。</p>			◎
<p>●「エコシティたかつ」推進のための体制づくり</p> <p>「エコシティたかつ」の実現に向けて、より多くの区民の参加を促進し、主体間の連携やプロジェクト間の調整、市域全体との連携・調整や多様な媒体を活用した効果的な情報発信等を行うためのより効果的な推進体制づくりを行っていきます。</p>	○	○	○

◎ 当該基本目標と関係が深い
○ 当該基本目標と関係がある



ビオトープから生きものを採取
(学校流域プロジェクト)



学校敷地周辺立体地形図に触れる子どもたち
(小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト)

³⁴川崎市緑の基本計画及び川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例に基づき、都市の顔となる地区として、重点的な緑化の推進が効果的であること、市街地開発事業等と連携した計画策定が可能であること、緑による良好な住環境の形成が可能であることなどの考え方のもとで設定した地区であり、市内の都市拠点を中心に8地区を設定している。溝口駅周辺地区においては、「緑と水でつなぐ 歴史街道 花街道」のテーマのもと、5つの基本方針と目標を設定した緑化推進重点地区計画に基づき、緑の保全・創出・育成の取組を進めている。

「エコシティたかつ」推進方針

平成 31（2019）年 3 月改定

発 行 川崎市
事務局 川崎市 高津区役所 まちづくり推進部 企画課
〒213-8570 川崎市高津区下作延 2-8-1
電 話 044-861-3131 FAX 044-861-3103
電子メール 67kikaku@city.kawasaki.jp

「エコシティたかつ」の推進に向けた総合的な展開

2009年度から2013年度までの取組

<学校流域プロジェクト>

学校を健全な水循環と生きものの賑わいを再生し支える地域のモデル基地と位置づけ、環境学習を実施する。
○小学校(14校)と市立養護学校にビオトープ整備 ○環境学習支援

<「たかつ自然の賑わいづくり」事業>

水系や流域等のランドスケープや生物多様性の視点を踏まえ、区内の河川の小流域を単位として、水・緑・生きものの調査を市民協働で実施し、適応策として地域から様々な活動を通じて、保水力・土砂防災力の高い流域づくりへの貢献及び自然の賑わいの回復を目指す。
○「たかつ水と緑の探検隊」による取組を市民健康の森・緑ヶ丘霊園で実施(生物の生育状況や保水力の状態の調査)
○調査結果に基づく外来植物の駆除作業・保水力向上の取組

<農的資源を活かしたまちづくりの推進>

「たちばな農のあるまちづくり」を推進する。
○農産物の紹介販売 ○農業体験
○ファーマーズマーケット「さんの市」の開催
○メサ・グランデ事業の実施

<エコシティホール化の推進>

区役所庁舎を環境展示場「エコシティホール」とし環境学習の場として活用した環境啓発を実施する。
○屋上緑化 ○壁面緑化(緑のカーテン) ○雨水利用 ○太陽光発電
○自動灌水装置 ○エコシティホールツアー
○産学官連携による共同研究(スナゴケを用いた屋上緑化の効果の検証)

<各種普及啓発活動の推進>

今日的な課題に対し、区民向けの各種普及啓発活動を、区民協働(市民・事業者・学校)で実施し、その中で「地球温暖化防止活動推進センター」等との連携を模索する。
○エコ・エナライフコンクール ○緑のカーテン講習会 ○エコシティたかつ応援団
○「エコシティたかつ」推進フォーラム ○「エコシティたかつ」推進会議
○CCCかわさき交流コーナーにおける「エコシティたかつ」のパネル設置

<その他>

○地図による地域環境資源の共有化の促進(立体地形図の作成、ベースマップ作成、ヒートアイランド・クールスポット調査の実施)
○まちなか油田プロジェクト(廃食油の回収、BDFの運行(かえるプロジェクト))
○エコ企業調査の実施(民間企業等7事業所等を視察)
○行政区レベルでの環境マネジメントの実践的な取組
○「緑と水でつながる 歴史街道 花街道」の推進
○円筒分水、かすみ堤を活かした「緑の回廊」づくりの推進

成果と課題

○計15箇所のビオトープを整備し、取組の拠点を作り、環境学習を実施することができた。
●健全な水循環のモデルとなる取組を推進する必要がある。
●地域のモデル基地となるよう学校や地域への働きかけが必要である。

○「たかつ水と緑の探検隊」による、生物多様性・保水力向上について試行的な取組を行うことができた。
●試行における経験を活かし、生物多様性・保水力向上について実践的な取組を行う必要がある。

○さんの市など、「たちばなブランド」農産物の購入や食事ができる仕組みを作ることができた。
●援農に対する農家・区民の期待が大きい。
●区内の農的資源の把握を進める必要がある。
●農的資源について生物多様性や適応策の観点から評価し、取り組む必要がある。

○区役所庁舎内において緑化や環境技術の導入を行うことができた。
●区役所庁舎だけでなく区内公共機関等への面的な広がりを図る必要がある。

○各種啓発イベント等を実施し、環境意識の向上や「エコシティたかつ」の取組のPRを行うことができた。また、緑のカーテン(ゴーヤ等)についても普及することができた。
●これまでの取組を継続するとともに、関係機関と連携した様々な機会や手法を活用した取組を行う必要がある。
●エコ・エナライフの普及(エコエナライフコンクール)については、新たな取組の手法を検討する必要がある。

今後の取組の視点

●これまでの成果を踏まえ、各プロジェクトを流域思考に基づく「緩和策」、「適応策」、「生物多様性」の視点から、社会状況や自然環境の変化に対応した、面的な広がりや質的な向上を図っていく必要がある。
●緩和策については、区民や関係団体の取組が充実しており、引き続き連携を行っていく必要がある。
●適応策と生物多様性については、関係団体との連携により、一層の実践的な取組や普及啓発を推進していく必要がある。

推進方針に基づく2014年度以降の取組(方向性)

<学校流域プロジェクト>

適応策

生物多様性

完了
○ビオトープ整備(子母口小、2015年度) ○環境学習支援 ○教職員向け学習会
◎学校を流域に見立てた、健全な水循環のモデルとなる取組(雨水貯留・雨水循環の仕組み等)の検討
◎地域に開かれたビオトープとするためのボランティアスタッフの育成の検討

<「たかつ自然の賑わいづくり」事業>

適応策

生物多様性

◎試行における経験を活かした、「たかつ水と緑の探検隊」における生物多様性・保水力向上の実践(取組場所:緑ヶ丘霊園)

<農的資源を活かしたまちづくり>

緩和策

適応策

生物多様性

○「たちばな農のあるまちづくり」の推進(「さんの市」の拡充、援農の拡充等)
◎区内の農的資源の活用に向けた調査・検討

<生物多様性の視点を踏まえたエコ・コミュニティづくり>

緩和策

適応策

生物多様性

生物多様性の視点から、生き物の生息・生育の拠点となる緑や水を維持・拡大・創出するとともに、拠点間における連続性の確保を図るとともに、取組を推進するための関係機関のネットワークを構築する。
○久地緑地・円筒分水・かすみ堤等を活かした緑の回廊づくり
○「エコシティたかつ」応援団 ○エコ企業調査
◎公園や学校ビオトープ等を活用した取組の推進

<環境技術等の導入の推進>

緩和策

適応策

区役所庁舎の「エコシティホール化」を継続するとともに、区内公共施設や企業等における環境技術や環境に配慮した取組等の導入を推進する。
○区役所庁舎の「エコシティホール化」の推進
◎溝口駅周辺のエコ化の推進 ◎区内公共施設や企業等への導入の促進
◎市民主体の各種プロジェクトとの連携

<各種普及啓発の推進>

緩和策

適応策

生物多様性

環境教育・環境学習等を実施し、環境配慮意識を広めるとともに、環境に配慮した取組を積極的に実践する人材を育成する。
○エコシティホールツアー ○エコ・エナライフの普及啓発
○「エコシティたかつ」推進フォーラム ○「エコシティたかつ」推進会議
◎エコシティツアー ◎雨水樽・雨水浸透マス等の普及促進

<区内環境資源等の情報収集・共有>

緩和策

適応策

生物多様性

区内の環境資源や環境関係団体に関する様々な情報を収集するとともに、収集した情報を多様な主体による取組につなげるために、誰もが活用できるようにわかりやすく情報発信する。
◎地域の環境資源や環境関連団体の情報収集とマップや模型による情報共有
◎ICTを活用した情報発信・共有の検討
◎ヒートアイランド・クールスポット調査の展開

…わたしと地球をつなぐ街…

エコシティたかつ

推進事業 2020年度

基本理念
地球環境危機の時代に対応した、
自然の賑わいとともにある
持続可能な循環型都市構造の再生と創造
100年後のたかつのまちのために

「エコシティたかつ」の基本目標

緩和策
低炭素・省資源社会の実現

私たち一人ひとりが身近なアクションをおこし、
地域/地球の二酸化炭素の削減につなげ、資源を
有効に活用します

自然の賑わい・生物多様性
自然共生型都市再生の推進

丘陵などランドスケープを重視した、
生命（いのち）の賑わい豊かな自然共生型の
都市再生を地域から推進します

適応策
地域に即した防災まちづくりの推進

深刻化する局地的な豪雨や洪水、渇水に対し、
流域の水循環に即した「水災害適応型都市」づくり
を推進します

「流域」とは、
降った雨が集まる、
大地の範囲・領域
のことです。

自然の賑わい・生物多様性とは

池や湿地、森など
多様な生態系に、
たくさんの生きものが
相互に関連しながら
生息している状態のことです。

環境まちづくり普及啓発事業

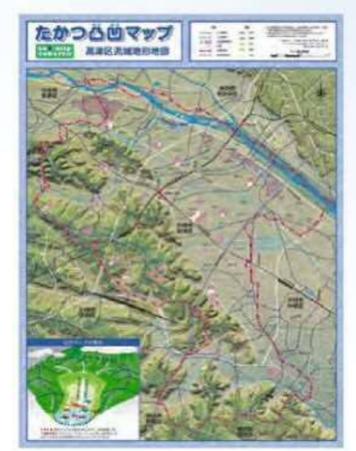
● 小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト

小学校敷地を小流域と見立て、流域での自然の地形(大地のデコボコ)を前提とした水の流れを意識し、適応策(賢い雨水の引き受け方)を考える機会を提供しています。川崎市立南原小学校とその周辺敷地について、3次元スキャナーで3D化した映像コンテンツを活用して、同校5年生を対象に出張授業「大地のデコボコから、みんなのまちの防災を考えてみよう!」を行いました。



● 高津区流域地形地図(たかつ凸凹マップ)の改訂

地形の起伏と流域界から雨水などの流れが理解できる「たかつ凸凹マップ」。発行から5年が経過したため改訂しました。前回発行後の浸水実績を追加するとともに、マップの見方を分かりやすく図で説明する欄を追加しました。



区内の農的資源を活かしたまちづくりの推進

- ファーマーズマーケット(高津 さんの市)の開催・定着化
- 農業体験の実施
- 地域交流拠点との連携
- 区役所レストランで区内で取れた野菜を使ったメニューを提供
- 「高津のさんぼみち」を活用した風景撮影ツアーの実施
- SNSを活用し区内の「映える」風景を募集するフォトコンテスト



みんなで進めよう! 「エコシティたかつ」

「エコシティたかつ」は、高津区で生活し、学び、働き、活動する私たちが、それぞれの立場でできることを行い、相互に響き、支えあうことで、大きな推進力が得られます。みなさんも一緒に「エコシティたかつ」の活動を進めませんか。

連絡先:
川崎市高津区役所
企画課

電話: 044-861-3131 / FAX: 044-861-3103
メールアドレス: 67kikaku@city.kawasaki.jp

join us!!

エコシティたかつ

クリック!

「エコシティたかつ」協賛・協力企業等

NECプラットフォームズ株式会社、株式会社川崎フロンターレ、学校法人洗足学園、久政農園、株式会社富士通ゼネラル、株式会社ホテルKSP、株式会社丸井、森正養鶏場 (敬称略、50音順)

「エコシティたかつ」推進事業 2020年度 報告書概要版
発行日: 令和3(2021)年3月
発行者: 川崎市「エコシティたかつ」推進会議
事務局: 川崎市高津区役所
デザイン: 有限会社 tt-unit

2020年度の プロジェクト報告

学校流域プロジェクト

学校にピオトーブ(池や草原、林など)や雨水利用施設を整備し、生きものや水循環について子どもたちが学ぶ場を作るプロジェクトです。

●環境学習支援

区内市立小学校8校に対し、ピオトーブ等を活用した生きもの採取・観察や、砂場を利用した流れる水の働きの学習など、体験活動を通じた環境学習を実施しました。また、学校等における環境学習の教材として活用できる動画コンテンツを作成しました。



「たかつの自然の賑わいづくり」事業

専門家と一緒に、水・緑・生きもの調査(外来の植物や生きもの探しも含む。)を行い、さまざまな活動を通して、地球温暖化適応策・生物多様性保全への貢献を市民協働で行うプロジェクトです。



●たかつ水と緑の探検隊

川崎市立緑ヶ丘霊園内の森の一部では、常緑樹により林床が暗く、下草が少ないため、保水力が低下しています。霊園内の谷戸の森をモデル地区として、間伐による健全な森の再生や、ホタルやトンボが舞う谷戸づくりを目指して、下作延小学校の児童と間伐などを行いました。



●たかつ生きもの探検隊(小学生向け)

専門家と一緒に多摩川河川敷で生きもの探しなどを実施しました。エンマコウロギやショウリョウバッタなど全24種類の生きものを捕まえるなど、楽しみながら自然の生態について学びました。



「エコシティたかつ」推進フォーラム

適応策についての理解を深めていただくため、「第8回かわさき環境フォーラム&環境エネルギー・ラボ2020 in たかつ」にweb及びブース出展し、小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト(後述参照)から3D動画の上映、3D断面図、3D模型の展示等を行いました。



エコシティツアー

「エコシティたかつ」推進会議委員同士の相互理解を深め、協働や連携を進めるためにエコシティツアーを実施しました。委員や関係者を対象に、みぞのくち新都市(ノクティ)様とマルイファミリー溝口様の環境活動の紹介いただき、エコファクトリーなどの施設見学を行いました。



令和 2 年度
「エコシティたかつ」 推進事業
報告書

令和 3 年 3 月

川崎市高津区役所

目 次

1	「エコシティたかつ」推進事業とは	1
2	令和2年度の実施結果	2
2. 1	「エコシティたかつ」推進会議の開催	4
2. 2	学校流域プロジェクト	6
2. 3	「たかつの自然の賑わいづくり」事業	8
2. 4	普及啓発の実施	10
2. 5	区内の農的資源を活かしたまちづくりの推進	12
2. 6	環境まちづくり普及啓発事業	14
2. 7	高津区流域地形地図改訂	16
3	令和3年度の実施予定	18
	参考資料 「エコシティたかつ」推進会議資料及び摘録	21
	・ 第1回資料	23
	・ 第1回摘録	33
	・ 第2回資料	47

1. 「エコシティたかつ」推進事業とは

高津区では、地球環境危機の時代において、区内で顕在化している自然環境、社会環境、生活環境に関する諸課題に対し、地域の多様な主体が協力して総合的かつ多面的に取り組むため、平成20年度に『「エコシティたかつ」推進方針』を策定した。

本方針では、基本理念、基本目標と取り組む際の5つの基本的な考え方などが規定されており、これらに基づき平成21年度からは「エコシティたかつ」推進事業として、各種プロジェクトを展開している。

「エコシティたかつ」推進方針 (2009年3月策定、2019年3月改定)

＜「エコシティたかつ」推進方針とは・・・＞

地球環境危機の時代において、高津区で顕在化している自然環境、社会環境、生活環境に関する諸課題に対し、地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に取り組むための基本的な方針です。

基本理念

地球環境危機の時代に対応した、自然の賑わいとともにある持続可能な循環型都市構造の再生と創造

エコシティたかつ

緑地帯・緑地帯・生物多様性保全への施策を、「流域」という枠組みで統合していく「エコシティたかつ」の長期環境戦略



＜基本目標＞

緩和策

① 低炭素・省資源社会の実現

私たち一人ひとりが身近なアクションをおこし、地域/地球の二酸化炭素の削減につなげ、資源を有効に活用します。

生物多様性

② 自然共生型都市再生の推進

丘陵などランドスケープを重視した、生命（いのち）の賑わい豊かな自然共生型の都市再生を地域から推進します。

適応策

③ 地域に即した防災まちづくりの推進

深刻化する局地的な豪雨や洪水、濁水に対し、流域の水循環に即した“水災害適応型都市”づくりを推進します。

＜実現に向けた基本的な考え方＞

エコだけじゃ、エコは進まない！

① 環境的・社会的・経済的持続可能性の実現

環境的視点を重視しながらも、社会的視点や経済的視点を取り入れた取組を推進することにより、持続可能な都市をめざします。

大地の“でこぼこ”を考えたプランニング

② 地域の流域特性に根ざした事業推進

基本的な地形に配慮し、それぞれの流域に根ざした緑地保全や健全な水循環系システムを構築することは、地球温暖化に伴う自然災害への適応策として、市民が安全に暮らしていくことのできる水災害に強い都市の基盤づくりとなります。

まちのみんなが進めよう！

③ 多様な主体の協働・連携による推進、区民の参加促進と担い手の育成

区民、企業、学校、行政等の多様な主体が情報共有を進め、共通の目標に向かって、それぞれの役割と責任の中でできることを行い、連携することで大きな推進力を生み、相乗的な事業展開や新たな取組の誘発につなげることが大切です。

区役所の事業をエコから捉え直す

④ 区の事務事業の環境視点からの見直しと総合的展開

区役所の事業を環境的視点から捉え直し、必要に応じて区役所が実施する各事業間の連携を進めることにより、効果的・効率的に「エコシティたかつ」を推進していきます。



2. 令和2年度の取組結果

令和2年度は、これまでの取組みの成果を踏まえ「エコシティたかつ」推進事業の実施状況のとおり各プロジェクトを推進した。

令和2年度「エコシティたかつ」推進事業 実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月
学校流域プロジェクト			<ul style="list-style-type: none"> ● 学習支援 ・区内市立小学校及び中央支援学校で学習支援の実施 		
「たかつの自然の賑わいづくり」事業					
普及啓発イベントの実施	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタルサイネージを活用した普及啓発 				
橘地区の農的資源を活かしたまちづくりの推進					
「緑と水でつなぐ 歴史街道 花街道」の推進		<ul style="list-style-type: none"> ● 5/19 「区民ミニ・ガーデン」運営委員会(第1回) 			
小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト					
「エコシティたかつ」推進会議					

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			→			
● 9/13 たかつ生きもの探検隊 ※ 小学生向け		● 11/4 水と緑の探検隊 ※ 下作延小学校と連携して実施予定				
						→
	● 10/28 エコシティツアー		● 12/13 推進フォーラム			
	● 10/4 親子で楽しむ秋の農体験	● 11/10 ステキに映え農フォトツアー	● 12/20 さんの市 ● 12/10～17 高津市民館で写真展 ● 12/18～24 区役所市民ホールで写真展			
● 9/4 「区民ミニ・ガーデン」運営委員会(第2回)		● 11/15 溝口駅前キラリデッキ植栽体験イベント	● 12/6 花街道植栽体験イベント ● 12/18 「区民ミニ・ガーデン」運営委員会(第3回)			● 3/5 「区民ミニ・ガーデン」運営委員会(第4回) ● 3/22 「区民ミニ・ガーデン」運営委員会 会計監査、花壇引継ぎ
			● 12/15 南原小学校で出張授業			
● 9/16 第1回推進会議					● 第2回推進会議(中止)※ 書面による情報共有	

2. 1. 「エコシティたかつ」推進会議の開催

(1) 目的

「エコシティたかつ」推進方針に基づく施策展開のため、「エコシティたかつ」推進会議を開催している。今年度は2回開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響で1回を書面による情報共有としたため、結果として1回の開催となった。

(2) 「エコシティたかつ」推進会議の構成員

令和2年度「エコシティたかつ」推進会議 委員名簿		
氏名	所属	職名
岸 由二	慶應義塾大学	名誉教授
田中 友章	明治大学理工学部	教授
竹井 斎	川崎市地球温暖化防止活動推進センター	センター長
徳武 道雄	高津区市民健康の森を育てる会	相談役
加藤 伸子	高津区まちづくり協議会	
仲村 美津子	たちばな農のあるまちづくり推進会議	委員長
平澤 克己	NECプラットフォームズ株式会社（区内企業）	環境工務部 環境企画・首都圏グループ マネージャー
加藤 祐美子	株式会社川崎フロンターレ（区内企業）	集客プロモーショングループ
今川 広明	株式会社富士通ゼネラル（区内企業）	CSR推進部 シニアマネージャー
竹内 篤	マルイファミリー溝口	施設管理部長
吉岡 高史	学校法人 洗足学園	法人本部財務責任者
遠藤 慶子	市民委員	
山内 浩正	川崎市立小学校長会高津支部	久本小学校長
石井 芳宏	川崎市教育委員会 総合教育センター カリキュラムセンター	指導主事
川田 剛	川崎市高津区役所	副区長
岩上 淳	川崎市環境局総務部環境調整課	課長
五十嵐 美保子	川崎市環境局地球環境推進室（協働推進・国際環境施策）	担当課長
小沼 匡弘	川崎市建設緑政局総務部企画課	課長
押田 春美	川崎市高津区役所保健福祉センター（学校・地域連携担当）	担当課長
小森 章一	川崎市高津区役所道路公園センター（協働推進担当）	担当課長

(3) 開催概要

	開催日時及び場所	出席者数	主な議事内容
第1回	令和2年9月16日(木) 13時～15時 高津区役所5階 第1、第2会議室	委員：14名 傍聴者：3名	・「エコシティたかつ」について ・最近の適応策に関する動向について ・令和元年度の取り組みについて ・令和2年度推進事業の進め方について

【書面による情報共有※】

資料送付日	主な内容
令和3年3月4日(木)	・令和2年度「エコシティたかつ」推進事業における取組結果について ・令和3年度取組について ・委員からの情報提供

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

2. 2. 学校流域プロジェクト

1 学校流域プロジェクトについて

学校にビオトープや雨水利用施設を整備し、生きものや水循環について子どもたちが学ぶ場を作るプロジェクト

2 ビオトープを活用した環境学習支援の実施状況について

学校名	実施日	学年等
子母口小学校	11月10日	5年生・5クラス（177名）
新作小学校	12月1日	飼育委員会
東高津小学校	7月30日	6年生5クラス（181名）
坂戸小学校	10月15日	5年生3クラス（92名）
久本小学校	7月27日	6年生4クラス（144名）
梶ヶ谷小学校	6月30日	3年生4クラス（146名）
西梶ヶ谷小学校	8月21日	3年生3クラス（87名）
上作延小学校	10月22日	5年生3クラス（111名）
橘小学校	新型コロナウイルス感染症の影響で中止	
末長小学校		
下作延小学校		
高津小学校		
久末小学校		
南原小学校		
久地小学校		
中央支援学校		



3 その他

環境学習支援を目的とした動画コンテンツの制作を行った。

○ コンテンツの内容

学校流域プロジェクトのプログラムの一つ「雨の水のゆくえ」に関連し、学校の校庭に降った雨水がどのように流れるかを解説

○ 活用方法

区内小学校等における環境学習のための教材として、動画コンテンツを提供するとともに、他区の小学校等においても環境学習に活用してもらえよう、ホームページ（YouTube「川崎市たかつ区チャンネル」）で公表。



YouTube：川崎市たかつ区チャンネル

URL: <https://www.youtube.com/channel/UCY8QS2jtwYQVREIFQSynbFg>



2. 3. 「たかつの自然の賑わいづくり」事業

1 たかつ生きもの探検隊

- (1) 日 時 令和2年9月13日(日) 10時00分～11時45分
- (2) 会 場 高津区せせらぎと親子広場
- (3) 参加者 小学生と保護者15組で15人(小学生15人、保護者15人)
- (4) 内 容 多摩川の概要説明
生きものの採集・解説
- (5) 見つかった生きもの

分 類	名 称	
コオロギ	エンマコオロギ	ハラオカメコオロギ
バッタ	トノサマバッタ ツユムシ	ショウリョウバッタ コバネイナゴ
チョウ	ヤマトシジミ ベニシジミ モンシロチョウ モンキチョウ キタテハ	シヤクガの仲間 キタキチョウ イチモンジセセリ ヤガの仲間(成虫・幼虫)
トンボ	アオモンイトトンボ ショウジョウトンボ	シオカラトンボ
その他	アオクサカメムシ キマダラカメムシ トラマルハナバチ	ウスイロササキリ コバネヒメギス カンタン



2 たかつ水と緑の探検隊

- (1) 日 時 令和2年11月4日(水) 9時30分～11時30分
- (2) 会 場 川崎市立緑ヶ丘霊園内谷戸
- (3) 参加者 下作延小学校生徒64名(2クラス)、下作延小学校教師2名
- (4) 内 容 森づくり体験(シラカシ等の間伐、池の穴掘りなど)
- (5) 主な感想

- ・エコシティたかつが色々な活動をしていて、こんなにも森林のために頑張っていてすごいと思います。50年後、100年後にはきれいで日光の入り込む森が増えていると良いなと思います。
- ・初めて木を伐った。楽しかった。手首くらいの大きさで、伐るのが大変だった。初めて木の切り口を見た。
- ・私は木の伐採を実際にしてのこぎりで伐るのが苦労したけれども、木を伐り終わった後は気持ち良かったです。池の穴掘りを手伝ったときにも思ったより力が必要だったことに気づきました。
- ・森などの色々な取り組みを知ることが出来た。高津のために自然を作ったりしてくれているのがうれしかった。



2. 4. 普及啓発の取組

1 エコシティツアー

(1) 日 時：令和2年10月28日（水）14：00～16：00

(2) 場 所：ノクティプラザ、マルイファミリー溝口（高津区溝口1丁目3番1号）

(3) 参加者：18人（委員10人、関係者2人、事務局5人、業務支援1人）

(4) 内 容

：概要説明、質疑

- ・ノクティの環境活動（再生可能エネルギーの活用、エコファクトリーでのゴミの分別とリサイクル、屋上緑化・ビオトープ他）
- ・マルイファミリー溝口の環境活動（エコロジカル・インクルージョン、フードホール「HARA8」での国産木材利用、「Q-SUI」他）

：施設見学

- ・エコファクトリー、フードホール・フードコート（国産木材利用活動）、ビオトープ、屋上広場



2 「エコシティたかつ」推進フォーラム

(1) 形態：イベント「第8回 かわさき環境フォーラム&環境エネルギー・ラボ 2020 in たかつ
(主催：川崎市地球温暖化防止活動推進センター)」に出展

(2) Web 展示：川崎市地球温暖化防止活動推進センターHP での紹介

内 容：エコシティたかつの活動紹介

：家電リサイクル（株式会社富士通ゼネラル）紹介

(3) 当日展示：令和2年12月13日（日）10：30～15：30（場所：高津市民館）

内 容：適応策の周知... エコシティたかつ～大地の凸凹から考える～

- ・小学校敷地丸ごと3D化プロジェクトから3D動画の上映、3D断面図、3D模型の展示
- ・凸凹マップ、各種資料及びエコシティたかつエコバッグの配布



2. 5. 区内の農的資源を活かしたまちづくりの推進

1 目的

高津区では、平成20年度に策定（平成31年3月改定）された『「たちばな農のあるまちづくり」推進方針』に基づき、主に橘地区の農資源を活用したイベントの実施や情報発信を通じて、地域の活性化、地域住民のふるさと意識の醸成、地域や区全体の魅力向上を図ることを目的とした活動を行っています。

2 取組内容

(1) 「たちばな農のあるまちづくり」推進会議の実施

各取り組みの検討や進捗状況の把握等のため、推進会議を開催した。

	日時・場所	議題
第1回	令和2年6月11日（木） 19:00-20:30 高津区役所会議室	① 自己紹介 ② 委員長・副委員長の選出 ③ 事業見直しについて検討(意見交換)
第2回	令和2年8月5日（水） 19:00-20:30 高津区役所会議室	① 事業見直しについて検討(意見交換)
第3回	令和2年11月12日（木） 19:00-20:30 高津区役所会議室	① 今年度のイベント実施状況の報告 ② 高津さんの市の開催(R2.12.20)について ③ 来年度以降の方向性について
第4回	令和3年3月11日（木） 18:30-19:30 高津区役所会議室	① 令和3年度事業方針(案)の確認 ② 高津さんの市の開催(R3.4.18)について ③ 委員長・副委員長の選出(次年度)

(2) 「高津さんの市」の開催

「地元産」、「市民参加」と「SUNDAY開催」をキーワードに、生産者による野菜の直売や地元野菜を使用した食品販売などで賑わう「高津さんの市」を久本薬医門公園で開催した。

第1回：令和2年4月19日（日）	9:30～12:00	※ 新型コロナの影響で中止
第2回：令和2年6月21日（日）	9:30～12:00	※ 新型コロナの影響で中止
第3回：令和2年8月16日（日）	9:30～12:00	※ 新型コロナの影響で中止
第4回：令和2年10月18日（日）	9:30～12:00	※ 新型コロナの影響で中止
第5回：令和2年12月20日（日）	9:30～12:00	来場者数 約250名
第6回：令和3年2月21日（日）	9:30～12:00	※ 新型コロナの影響で中止



今年も地元産の新鮮な野菜が並びました。



新型コロナ対策を実施して開催しました。

(3) 農体験イベントの実施

まちの中にたたく農家で旬野菜の収穫体験を行い、高津区の魅力の一つである都市農業を身近に感じてもらう、親子向け農体験イベントを開催した。

「親子で楽しむ秋の農体験」

令和2年10月 4日(日) 澁谷農園(1日2部制で実施) ※23名参加(親子9組)

(4) フォトコンテスト、撮影ツアーの実施

区の地域資源である、農のある風景等の魅力を市民参加により発信する、写真共有アプリ Instagram を活用したフォトコンテストを開催。応募された作品全てを区内の公共施設等で展示。また、フォトコンテストのタイアップ企画としてフォトツアーを開催した。

「ステキに映え農フォトコンテスト2020」

令和2年 2月1日～11月31日 ※応募数 約170点

「ステキに映え農フォトコンテスト作品展」

令和2年12月10日～12月17日 @高津市民館11階ウォールギャラリー

令和2年12月18日～12月24日 @高津区役所1階ロビー

「映え農フォトツアー ～高津のさんぽみち 久本山とお寺巡り～」

令和2年11月10日(火) ※19名参加

2. 6. 環境まちづくり普及啓発事業 ～小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト～

1 目的

小学校敷地を小流域と見立て、その中の水循環を考える「学校流域プロジェクト」の一環として、流域での自然の地形（大地のデコボコ）を前提とした水の流れを意識し、適応策を考えるための機会を提供する。

2 取組内容

「エコシティたかつ」推進会議委員である明治大学理工学部建築学科田中研究室と協働で、川崎市立南原小学校周辺敷地を令和元年度に3次元スキャナーでデータ計測して作成した立体視画像やフライスルー・ムービーなどを用いて同校で出張授業を行った。

日 時：令和2年12月15日（火）8時45分～10時、10時50～12時05分

※ 2クラスそれぞれ2時限使って実施

場 所：南原小学校視聴覚室

参加者：5年生2クラスの児童（約50人）、担任教諭など

テーマ：大地のデコボコから、みんなのまちの防災を考えてみよう！

概要：小学校敷地周辺の1/2000の地形模型や過去から現在までの異なる時代の航空写真、「小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト」の成果物である3D点群データによる画像・映像などを用いて、子どもたちにも分かりやすい形で題材を提供し、自分たちが住むまちや通っている小学校がどんな場所なのかを子どもたちが気づき・考える機会を与えた。

大地のデコボコ（小流域の地形）の特徴に合った賢い雨水の引き受け方を一緒に考えることで、まちの防災について考える総合学習の授業を行った。

講義項目：みんなのまちの姿を見つめ直して考えてみよう

みんなの小学校をまるごと3D化してみました！

近年の夏～秋の天候を振り返ってみよう！（猛暑や豪雨・台風）

大地のデコボコから、みんなのまちの防災を考えてみよう



田中教授による講義



田中研究室の学生による講義



地形模型に触れて大地のデコボコを体感



南原小学校の3Dムービーに興味津々！



最後は教室でドローンを飛ばして記念撮影

2. 7. 高津区流域地形地図（たかつ凸凹マップ）の改訂

1 目的

現在配布している高津区流域地形地図（たかつ凸凹マップ）は、平成28（2016）年3月に作成しており、発行から5年が経過するため、浸水被害箇所などの時点更新をした。

また、使用している地図は、他者が著作権を有しており、許可を得て使用しているため、新たに地図を作成し、川崎市が著作権を有して二次利用できるようにした。

2 改訂内容

(1) 浸水被害箇所の追加

総務企画局危機管理室などが作成した浸水実績図や、令和元年台風第19号による排水樋管周辺地域及び河川関係の浸水に関する検証委員会資料を基に追加した。

(2) 凸凹マップの見方欄を追加

小流域の下流側が狭くなっていると、浸水が起こる危険性が高くなることをイラストで説明した。

(3) 南原小学校区域版の作成

小学校敷地丸ごと3D化プロジェクトの成果物と連携し、南原小学校での出張授業やエコシティたかつ推進フォーラムなどで活用できるように、南原小学校区域を切り出して拡大した地図を作成した。

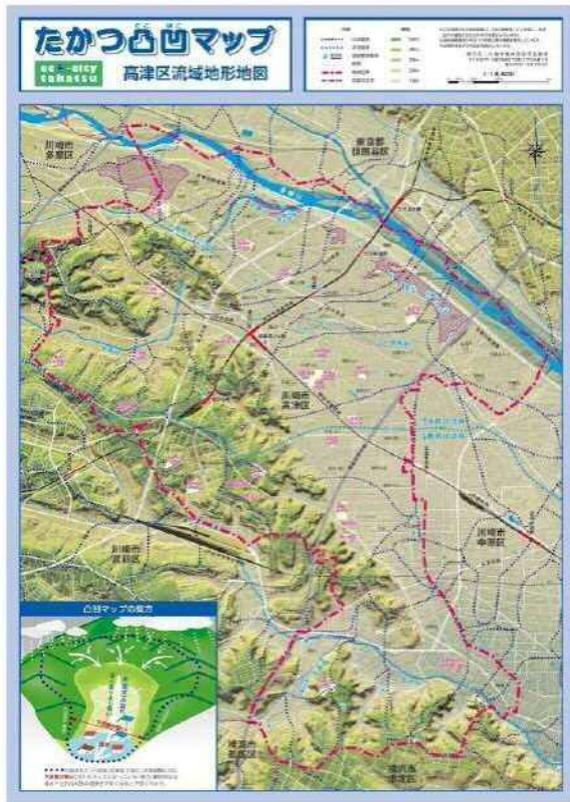
3 印刷

(1) たかつ凸凹マップ

A2サイズ、4色刷りで5,000部印刷した

(2) 南原小学校区域版

PDFファイルデータのみ作成した。必要に応じて印刷する。



3. 令和3年度の取組予定

令和3年度も、これまでの取組みの成果を踏まえ「エコシティたかつ」推進事業の実施予定のとおり各プロジェクトを推進する。

「エコシティたかつ」推進事業 令和3年度スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月
学校流域プロジェクト		<ul style="list-style-type: none"> ● 学習支援 <ul style="list-style-type: none"> ・区内市立小学校及び中央支援学校で学習支援の実施を予定 			
「たかつの自然の賑わいづくり」事業					
普及啓発イベントの実施	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタルサイネージを活用した普及啓発 				
橘地区の農的資源を活かしたまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 4/18 高津さんの市 		<ul style="list-style-type: none"> ● 6/20 高津さんの市 	<ul style="list-style-type: none"> ● 7月上旬 親子で楽しむ夏の農体験 	<ul style="list-style-type: none"> ● 8/15 高津さんの市
「緑と水でつなぐ 歴史街道 花街道」の推進		<ul style="list-style-type: none"> ● 「区民ミニ・ガーデン」運営委員会(第1回) 			
小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト					
「エコシティたかつ」推進会議				<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回推進会議 	

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		→				
● たかつ生きもの探検隊(予定) ※ 小学生向け		● 水と緑の探検隊(予定)				
	● エコシティツアー (時期・内容未定)		● 推進フォーラム (時期・内容未定)			→
	● 10月上旬 親子で楽しむ秋の農体験 ● 10/17 高津さんの市	● 11月上旬 ステキに映え農フォトツアー	● 12/19 高津さんの市 ● 12月2週目 高津市民館で写真展 ● 12月3週目 区役所で写真展		● 2/20 高津さんの市	
● 「区民ミニ・ガーデン」運営委員会(第2回)		● 溝口駅前キラリデキ植栽体験イベント (小学生親子優先) ● 「区民ミニ・ガーデン」三役会	● 花街道植栽体験イベント ● 「区民ミニ・ガーデン」運営委員会(第3回)			● 「区民ミニ・ガーデン」運営委員会(第4回)、三役会
			● 小学校で出張授業 ※ 実施未定			
					● 第2回推進会議	

